

加賀市立小中学校学習支援業務 仕様書

石川県加賀市
令和8年2月

加賀市立小中学校学習支援業務 仕様書

1	基本事項	2
1.1	業務の名称	2
1.2	調達の背景・目的	2
1.3	システム化範囲	2
1.4	本業務の範囲	3
2	本調達の要件	3
2.1	履行期間	3
2.2	成果物	3
2.3	費用の考え方	4
3	業務要件	5
3.1	本システムの提供	5
3.1.1	基本要件	5
3.1.2	機能要件	5
3.2	運用・保守	5
3.2.1	運用・保守体制	5
3.2.2	運用・保守実施内容	5
4	プロジェクト体制	6
5	会議体運営	7
6	研修	7
7	テスト	8
7.1	サービス提供における取扱い	8
7.2	テスト計画書の作成	8
7.3	テストに係る要件	8
7.3.1	受注者が実施するテスト	8
7.3.2	当市職員が主体となって実施するテスト	8
8	スケジュール	8
8.1	サービス開始日(システム本稼働日)	8
8.2	作業スケジュール	9
9	その他	9
9.1	貸与品	9
9.2	機密保護・個人情報保護	9
9.3	不適合責任	9
9.4	契約期間終了時のデータの取扱い	9
9.5	法令等の遵守	10
9.6	著作権に関する留意事項	10
9.7	協議	10

1 基本事項

加賀市立小中学校学習支援業務仕様書(以下「本仕様書」という。)は、石川県加賀市が、個別最適な学び・協働的な学びの実現を目的に、当市内の市立小中学校、義務教育学校において、AIドリル・授業支援システムを一体的に調達するにあたり、その仕様を定めたものである。

1.1 業務の名称

加賀市立小中学校学習支援業務(以下「本業務」という。)

1.2 調達の背景・目的

デジタル技術の急速な進展や新型コロナウイルス感染症の感染拡大などにより、教育現場においても、オンライン学習の導入やデジタル教材の利用拡大など教育環境が大きく変化しており、文部科学省が推奨する「個別最適な学び」・「協働的な学び」の実現と、学習指導要領に基づいた教育の実施が、現代社会における教育の質の向上にとって重要となっている。

このような背景の下、AIドリルシステムの導入は、児童生徒にとって、個々の習熟度に合わせた学習を可能にし、児童生徒一人一人の得意科目のさらなる強化や苦手科目の克服を支援し、学習意欲の向上を促す。また、教職員にとっては、児童生徒一人ひとりの習熟度が可視化され、個々にあった指導が可能になるほか、採点や準備が効率化され、児童生徒への対応時間を確保することが期待される。

また、授業支援システムの導入は、児童生徒にとって、多様な他者と協働しながら異なる考えを理解し、主体的な学びを可能にするとともに、児童生徒一人ひとりが他者とのかかわりの中で自らの個性や可能性と他者の考えを組み合わせより深い学びの創出を促すものとなる。教職員にとっては、授業中の各児童グループの作業状況が一元的に可視化され、個々にあった指導が可能になるほか、協働学習授業における事前準備が効率化され、児童生徒への対応時間の確保や協働学習授業の質・量の両面での充実が期待できる。

自治体においては、統一されたフォーマットで各学校の個別最適な学習と協働学習授業の実施状況を把握・管理することが可能になり、異なる学年間、異なる学校間での授業の実施などさらなる改善策の検討につながるものである。また、授業支援システム等のICT技術を活用した学びの提供は、国の「令和の日本型学校教育の構築を目指して」に関する答申で示された「令和の日本型学校教育」への転換を実現する一歩であり、学習指導要領の着実な実施における基盤となる。

このことから、当市は、AIドリル・授業支援システムを一体的に導入し、児童生徒一人一人が他者とかかわりの中で自分の能力を最大限に発揮できる個別最適な学びと協働的な学びの環境を提供することを目指すものである。

1.3 システム化範囲

システム化範囲は、当市内の市立小中学校、義務教育学校の児童生徒に対して、

- ・一人一人の習熟度に合わせた問題を出題し、回答の採点、学習状況の把握等をインターネットやその他の情報通信(PC、タブレット端末等)の技術を用いて行うAIドリル型教材の仕組み
- ・プレゼンテーションなどの共同作成、作業状況の把握や各生徒端末への画面共有等をインターネットやその他の情報通信(PC、タブレット端末等)の技術を用いて行う授業支援システムの仕組み

を提供することである。

参考として、令和8年度の当市内の市立小中学校、義務教育学校の学校数とそれぞれの種別の児童生徒数を記載する。ただし、転出入における児童生徒の増減及び教員・加賀市教育委員会の利用は業務の範囲内で対応すること。

表1 AIドリルの利用児童生徒数(想定)

学校種別	学校数	児童生徒数
小学校	16	1,561人
中学校	5	1,361人
義務教育学校※	1	134人
(※うち 前期課程		77人)
(後期課程		57人)
合計	22	3,056人

表2 授業支援システムの利用児童生徒数(想定)

学校種別	学校数	児童生徒数
小学校	16	2,309人
中学校	5	1,361人
義務教育学校※	1	159人
(※うち 前期課程		102人)
(後期課程		57人)
合計	22	3,829人

1.4 本業務の範囲

本業務の範囲は、次のとおりとする。

- (1) AIドリル及び授業支援システム(以下、「本システム」という。)の初期構築作業
 - ・ ネットワークや端末設定等の利用環境の整備
 - ・ システムの初期セットアップ
 - ・ テストの実施及び当市職員によるテスト実施への支援
 - ・ データ移行(データ移行が必要な場合に記載)
- (2) 本システムの提供
- (3) 本システムの運用・保守
- (4) システム導入に係るプロジェクト管理
- (5) 会議体運営
- (6) 研修

なお、本仕様書に基づく調達のプロセスで明らかとなる作業及び受注者が提案時に必要とした作業は、原則、本業務の範囲とする。

2 本調達の要件

2.1 履行期間

- (1) 本システムの初期構築作業
契約締結日から令和8年4月30日まで
- (2) 本システムの提供
本稼働の開始日(令和8年5月1日)から令和9年3月31日まで
ただし、初期構築作業を早めに完了した場合は初期構築作業完了日からとする。
なお、履行期間満了時については、必要に応じて契約更新をする場合がある。

2.2 成果物

- (1) 成果物は他に指定のない限り、履行期間終了日までに当市に提出し、確認を受けること。
- (2) 成果物としての書類は任意のサイズで用紙に印刷できる形式とすること。

- (3) 成果物は電子ファイルで提出することとし、PDF形式とすること。
- (4) 成果物として次の資料と必要に応じて補足資料を提出すること。
 - (ア) プロジェクト計画書及び作業計画書、作業工程表
本資料は、契約締結後、作業着手までに当市に提出し承認を受けること。
 - (イ) 設計書(システムセットアップ内容を記載した資料)
 - (ウ) テスト報告書
 - (エ) 研修資料
 - (オ) 操作マニュアル
 - ・ 手続担当者向けおよび申請者向けそれぞれについて、詳細版および簡易版を用意すること。
 - ・ 機能改善等により機能が更新されたときは、必要に応じマニュアルの改訂を行うこと。
 - ・ テスト開始日までに納品すること。
 - (カ) 毎月1回、以下の項目について、当市に報告すること。

表3 月次報告項目一覧

項 目	内 容
SLA	SLA遵守状況
障害報告	障害対応実績
その他	(以下、必要に応じて) 上記以外の一時的業務遂行についての報告 更なるシステム品質向上に向けた提案 など

2.3 費用の考え方

- (1) 構築費用(初期費用)
 - ・ システム導入にあたり構築費用(初期費用)が必要な場合は提案書に明記すること。
- (2) 利用料
 - ・ 本システムの運用・保守費用を含む利用料金の年額費用を記載すること。ただし、利用料金の支払いについては、本格稼働後から開始するものとする。
- (3) その他個別に適用する料金
 - ・ 本契約期間終了後、当市の希望により契約更新(延長)する場合について契約条件を提案書に明記すること。
 - ・ 契約期間中に利用可能な有償オプションがある場合、契約条件を提案書に明記すること。
 - ・ (AIドリル及び授業支援システム導入に必要な情報通信端末の調達に関する提案を合わせて受ける場合)発注者が求める環境の提供に必要な情報通信端末(タブレット端末等)及びそれに付随する周辺システム(セキュリティシステム等)にかかる費用については提案書に記載すること。複数の情報通信端末、周辺システムの導入を提案する際は、品目ごとに示すこと。
- (4) 本システムを利用する地方共通団体共通で対応すべき事項にかかる費用
 - ・ 国の法改正等により、本システムを利用する地方公共団体全体に対して対応すべき機能改修等は、標準仕様として追加経費の請求無く提供すること。

- ・ 追加経費が必要となる際は、追加経費の積算根拠等が分かる資料を提示し、本市と協議の上、承認を得ること。

3 業務要件

3.1 本システムの提供

3.1.1 基本要件

「機能要件等一覧」の別紙1「基本要件」にて提示する。

3.1.2 機能要件

「機能要件等一覧」の別紙2・別紙3「機能要件」にて提示する。

3.2 運用・保守

3.2.1 運用・保守体制

- (1) 本サービス(システム)は、5年間の利用を前提としており、利用中の運用・保守において発生する障害や問題に対して、責任を持って解決できる体制であること。
- (2) 職員による操作に関する問い合わせ等に対応する窓口を設けること。希望する対応時間及び連絡方法については、次に示す。なお、さらに効果的・効率的な体制が整えられる場合は提案すること。
 - ・ 電話での問合せ:土・日・祝日、お盆期間、年末年始を除く平日の午前9時から午後5時まで
 - ・ (メールもしくはチャットや)問合せフォームでの問合せ:常時
(なお、サービス利用者からの問合せ窓口を準備できることが望ましい。)
- (3) 問合せ対応の時間帯以外においても対応できる障害等緊急時の連絡窓口を設置すること。また、障害等緊急で対応すべき事象が発生した場合に対応が必要となる受注者の技術者やその他関係するメーカー等との連絡体制を整備すること。
- (4) 運用・保守体制として、通常及び緊急時の連絡先及び連絡方法を提示すること。

3.2.2 運用・保守実施内容

- (1) 問合せ対応
 - ・ 職員からの運用に関する問合せに対して、速やかに回答を行うこと。必要に応じて現地に来庁し、運用支援を行うこと。
 - ・ 問合せ窓口寄せられた内容などから、機能改善要求および追加機能要求を把握すること。
- (2) 障害対応
 - ・ 障害等緊急で対応すべき事象が発生した場合は、連絡窓口が一次窓口の役割を担い、必要に応じて受注者の技術者やその他関係メーカー等と連携し、速やかに対応すること。
 - ・ 障害等緊急時の対応手順をあらかじめ作成し、提示すること。
 - ・ 障害発生時の連絡を受けた場合は、その障害原因を特定し、運用担当者へ報告すること。
 - ・ 重大障害の際には、対策会議等を開催し、経過等を取りまとめ報告するとともに、改善策を運用担当者へ提示すること。

- ・ 導入したサービス(システム)において、ウイルスの検出や不正アクセス等の事案が発生した場合は、運用担当者と協力し、対応及び原因究明を行うこと。
- (3) システム保守
- ・ 受注者は、導入したサービスの正常な動作を確保するための一切の保守業務を実施すること。
 - ・ 導入したサービス(システム)に関連するソフトウェアにおいて、修正等のモジュールが提供された場合には、モジュールの適用の必要性を判断し、運用担当者へ説明すること。モジュールの適用は、運用担当者の承認を得た上で実施すること。
 - ・ 導入したサービス(システム)で使用するソフトウェアに対するセキュリティーホールが各メーカーより報告された場合は、全体への影響度を考慮に入れ、対策プログラムの適応の必要性を判断し、運用担当者へ報告すること。協議の結果、適応が必要であると運用担当者が判断した場合は、対策を実施すること。
- (4) その他
- ・ 問合せ対応で把握したニーズは、その対応について検討するとともに、対応を行った場合は定期バージョンアップ時等での反映を検討すること。
 - ・ その他運用・保守について、追加費用を必要とせず提供できる機能等、有効な提案があれば併せて提案すること。

4 プロジェクト体制

受注者は、本書に基づき、システム構築等作業における具体的な体制、プロジェクト管理方針、プロジェクト管理方法等を含んだプロジェクト計画書を作成すること。

なお、プロジェクト管理における品質基準・要員スキル要件は以下の通りとする。

表4 品質基準

管理項目	管理内容
進捗管理	プロジェクト計画書策定時に定義したスケジュールに基づく進捗管理を実施する。進捗及び進捗管理に是正の必要がある場合は、その原因及び対応策を明らかにし、速やかに是正の計画を策定すること
品質管理	プロジェクト計画書策定時に定義したシステム構築等作業の品質管理方針に基づく品質管理を実施すること。 品質及び品質管理に是正の必要がある場合は、その原因と対応策を明らかにし、速やかに是正の計画を策定すること
課題・リスク管理	リスクや障害が顕在化した場合は課題として管理すること。受注者は、リスクの発生を監視し、リスクが発生した場合には、当市に報告すること
変更管理	仕様確定後に仕様変更の必要が生じた場合には、受注者は、その影響範囲及び対応に必要な工数等を識別したうえで、変更管理ミーティングを開催し、当市と協議のうえ、対応方針を確定すること

表5 要員スキル要件

要求するスキル	スキルの詳細
プロジェクト管理能力を有する者	プロジェクト実施計画を策定し、システムの設計・開発、テスト、システムの評価、プロジェクト間の調整を行い、生産性及び品質の向上に資する管理能力を有すること
品質管理能力を有する者	受注者の品質管理規準に従い、プロジェクトを離れて第三者的かつ客観的に、プロジェクト全般の品質状況を監査し、評価・改善する能力を有すること
導入サービスに関する専門知識を有する者	導入するソフトウェア(OS、ミドルウェア含む。)に関する専門知識と、本件の要求事項を理解したうえで、最適なシステム構成の設計・構築・運用に係る技術及び技術コンサルティング能力を有すること
システム導入業務に関する知識を有する者	本件のスコープに適合した各自治体業務に精通し、他自治体事例等を提供し、業務改善及びカスタマイズ抑制、品質向上に資する能力を有すること

5 会議体運営

受注者は、定期報告の会議体として、年3回(1学期に1回)程度の定例報告会を開催することとする。また、定例報告会以外の会議が必要な場合は、適宜必要な会議を開催すること。なお会議体の実施方法については、Web 会議(Meet)等を利用する想定であるが、詳細は当市と議論のうえ決定すること。

各会議の開催にあたっては、進捗報告書、課題管理表、変更管理票、スケジュール、会議録、その他必要と思われる報告資料等を準備すること。

6 研修

システム利用者である教職員及び管理者向けの研修を実施すること。

研修を実施するために必要となるシステム及び端末の設定や講師の派遣、対象職員数に応じたサポート要員の準備等、研修に必要となる一連の要素は受注者の負担にて準備すること。

詳細な研修要件については、下表に示す。

表6 研修要件

項目	研修内容
システムの概要の説明	システムの概要・背景等を説明する。
システムの操作の説明	システムの操作説明をする。操作説明の際は、当市の運用に合わせた操作マニュアル(管理者用・利用者用の両方)を準備すること。
運用・保守の説明	システムの運用保守に関する必要事項等を説明する。

7 テスト

7.1 サービス提供における取扱い

サービスを提供する場合における標準機能については、改めて当該機能のテストを行うことは不要とする。ただし、当市用にカスタマイズのある箇所や当初セットアップの内容によって機能の動作が変化する箇所については、テストを行うこと。

7.2 テスト計画書の作成

実施するテストについて、テスト方針、実施内容及び実施理由、評価方法、実施者を記載し、テスト工程開始までにテスト計画書として提出し、承認を得ること。

7.3 テストに係る要件

7.3.1 受注者が実施するテスト

- (1) 受注者はテスト作業の管理を実施すると共に、その結果と品質に責任を負うこと。
- (2) 受注者はテストの実施に必要な当市担当者及び関連する他システムに係る業者等との作業調整を行うこと。
- (3) テストスケジュールは、当市担当者への作業負荷を抑えるよう工夫すること。
- (4) テストにおいて、導入スケジュールに大きな影響を及ぼす可能性のある問題を把握した場合は、速やかに当市担当者に報告すること。
- (5) 各テスト終了時に、実施内容及び品質評価結果をテスト報告書として作成し報告すること。
- (6) テスト時に使用した不要なデータ、テスト用認証情報は本稼働前には完全に削除し、当市に報告すること。
- (7) テストデータは、原則として受注者において用意し、責任を持って管理すること。
- (8) テストに特別な環境が必要な場合は、受注者の負担と責任において準備すること。
- (9) テストに必要な端末等は、当市所有の機器を使用するが、テストを実施するために必要な各種設定は受注者の責任において実施すること。

7.3.2 当市職員が主体となって実施するテスト

- (1) テスト実施者が行う具体的な手順及び結果を記入するためのテスト実施手順書案を作成し、テスト実施者への説明を行うこと。
- (2) テストの実施にあたり、当市の求めに応じてサポートすること。
- (3) 可能な限り本番環境と同等のテスト実施環境を準備すること。
- (4) テストで必要となるテストデータについて準備すること。
- (5) テストで確認された不具合・障害について、解析を行い、対応方針を提示し当市の承認を得ること。

8 スケジュール

8.1 サービス開始日(システム本稼働日)

令和8年5月1日

ただし、初期構築作業を早めに完了した場合は初期構築作業完了日からとする。

8.2 作業スケジュール

(1) スケジュール

提案範囲に掲げるすべての作業項目について、作業開始からサービス開始日まで（サービス開始日以降に実施する作業等を提案する場合はその作業期間まで）のスケジュール(案)を作業工程等が分かるよう詳細に示すこと。

なお、具体的なスケジュールについては、当市との当該業務の契約締結時までに協議のうえ決定する。

(2) 作業工程等

スケジュール(案)で示した作業工程について、その内容や役割分担等について記載すること。

(3) 留意事項

本サービス(システム)の本稼働の前に職員が動作確認するためのテスト期間を十分に設けること。

9 その他

9.1 貸与品

機器の設定等に必要な資料等がある場合は、その都度貸与する。貸与品の管理保管は、不測の事態が生じないように適正に管理しなければならない。

9.2 機密保護・個人情報保護

- (1) 本業務の遂行上知り得た秘密を他に漏らしてはならない。この項については、契約期間の終了または解除後も同様とする。また、成果物(本業務の過程で得られた記録等を含む。)を当市の許可なく第三者に閲覧、複写、貸与または譲渡してはならない。
- (2) 本業務の遂行のために当市が提供した資料、データ等は業務以外の目的で使用しないこと。また、これらの資料、データ等は業務終了までに当市に返却すること。
- (3) 本業務の実施における個人情報等の取扱いについては、個人情報の保護の重要性を十分認識し、個人の権利利益を侵害することのないよう必要な措置を講じること。
- (4) 本業務に従事する者に対して個人情報保護の教育を行うこと。

9.3 不適合責任

- (1) 本システム本運用開始後1年の間に、正当な理由無く、本仕様書で要求した性能水準に達していないことが判明した場合および設計ミスによる不良および不具合が判明した場合において、当市が改良を請求したときは、当市と協議の上、無償で改良すること。なお、この場合、不具合の改良のために操作内容を変更しないこと。
- (2) 本システムを運用する上で必要な情報の提供に努め、当市からの障害発生時の情報開示請求などの問い合わせや助言要求に対して、誠意をもって対応すること。
- (3) 受注者の責めに帰すべき理由により、第三者に損害を与えた場合、受注者がその損害を賠償すること。

9.4 契約期間終了時のデータの取り扱い

受注者は契約期間終了時には、当市に確認した後、すみやかに当該データの確実な消

去を行い、当市に報告すること。その際、事業者が発生する費用については、当市に別途請求しないこと。

9.5 法令等の遵守

受注者は、本業務の遂行に当たっては以下に掲げる法令等を遵守すること。

- (1) 国等で定められた法・ガイドライン
 - ・ 個人情報の保護に関する法律(平成15年法律第57号)
 - ・ 不正アクセス行為の禁止等に関する法律(平成11年法律第128号)
 - ・ 文部科学省学習指導要領
 - ・ 文部科学省「教育情報セキュリティポリシーに関するガイドライン(令和6年1月)」
- (2) 当市が定める条例・セキュリティポリシー等
 - ・ 加賀市教育情報セキュリティポリシー

9.6 著作権に関する留意事項

第三者が権利を有している画像等を使用する場合は、事前に権利者から二次利用を含めた使用の許諾を得た上で、必要となる一切の手続き及び使用料の負担等は受注者が行うこと。

9.7 協議

本仕様書に定める事項に疑義が生じた場合、または本仕様書に定めのない事項(仕様変更、機能追加等)で協議の必要がある場合は、当市と協議を行うこと。